FISHING イチバン Fishingエイトグループ

Sports Fishing Shop 18
ICHIBAN & EIGHT GROUP

別冊つり人社
vol.400「黒鯛×チヌJAPAN最前線」
に掲載されました。(P40〜P43)
ぜひご覧ください。

KURODAI×CHINU 別冊つり人 vol.400
定価：本体1,500円＋税

Japan 2015 最前線

チヌ王2年連続覇者のトッププラグ必釣メソッド

クロチヌゲーム入門
トップウォーター／ボトムズル引き／高速リトリーブ

東京湾クロダイ攻略最前線

名手が語るデイの可能性

新提案!
浜名湖サイトフィッシングのススメ

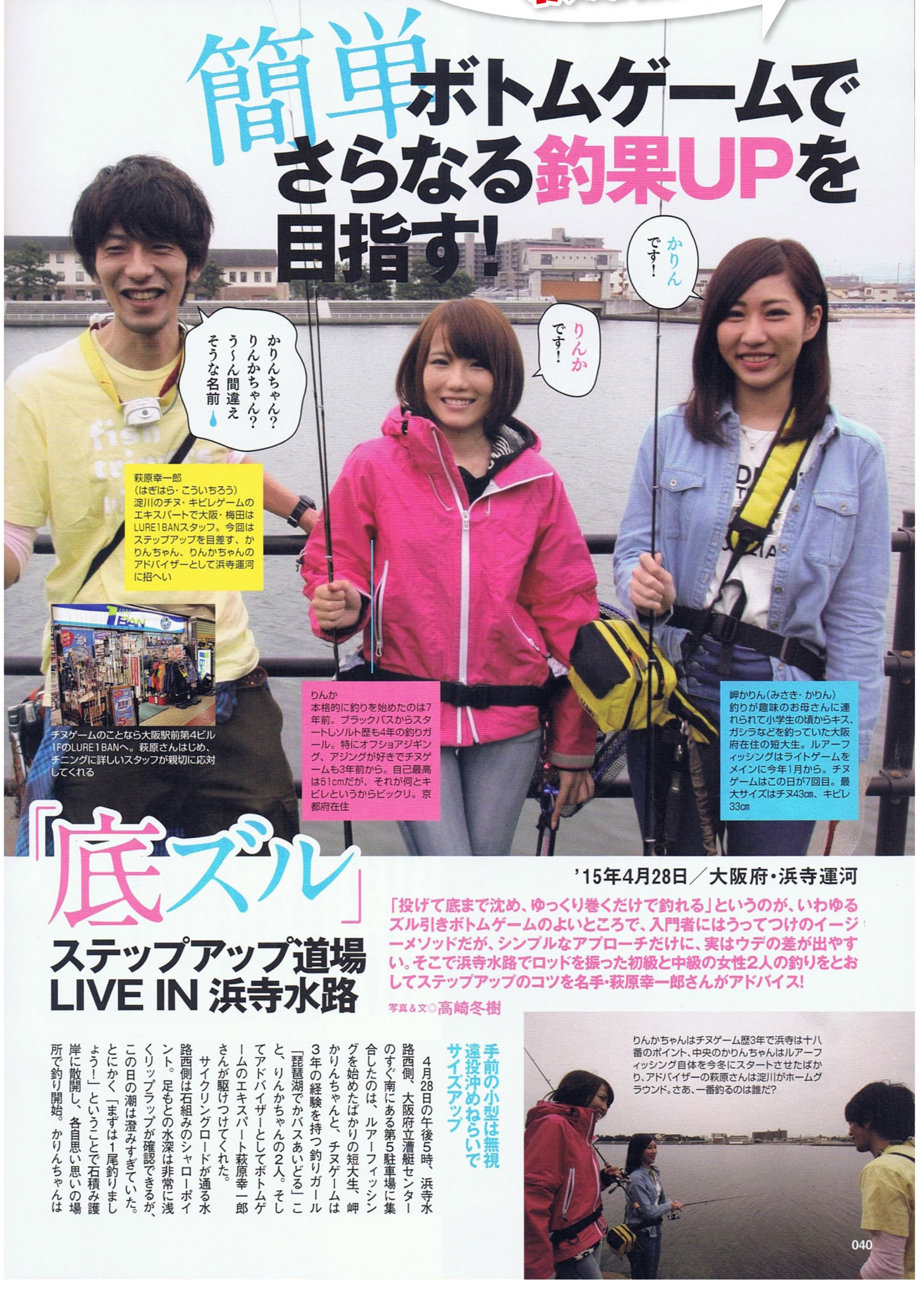
黒鯛×チヌ

黒鯛×チヌのルアーゲーム最旬情報満載!!

誰だって興奮度MAX! クロダイ新時代到来!

激熱デイゲーム REVOLUTION

ルアー1BAN梅田
萩原登場!!


簡単ボトムゲームでさらなる釣果UPを目指す!

かりんちゃん？りんかちゃん？う〜ん間違えそうな名前

りんかです!

かりんです!

萩原幸一郎（はぎはら・こういちろう）淀川のチヌ・キビレゲームのエキスパートで大阪・梅田はLURE1BANスタッフ。今回はステップアップを目差す、かりんちゃん、りんかちゃんのアドバイザーとして浜寺運河に招へい

チヌゲームのことなら大阪駅前第4ビル1FのLURE1BANへ。萩原さんはじめ、チニングに詳しいスタッフが親切に応対してくれる

りんか
本格的に釣りを始めたのは7年前。ブラックバスからスタートしソルト歴も4年の釣りガール。特にオフショアジギング、アジングが好きでチヌゲームも3年前から。自己最高は51cmだが、それが何とキビレというからビックリ。京都府在住

岬かりん（みさき・かりん）
釣りが趣味のお母さんに連れられて小学生の頃からキス、ガシラなどを釣っていた大阪府在住の短大生。ルアーフィッシングはライトゲームをメインに今年1月から。チヌゲームはこの日が7回目。最大サイズはチヌ43cm、キビレ33cm

「底ズル」ステップアップ道場 LIVE IN 浜寺水路

'15年4月28日／大阪府・浜寺運河

「投げて底まで沈め、ゆっくり巻くだけで釣れる」というのが、いわゆるズル引きボトムゲームのよいところで、入門者にはうってつけのイージーメソッドだが、シンプルなアプローチだけに、実はウデの差が出やすい。そこで浜寺水路でロッドを振った初級と中級の女性2人の釣りをとおしてステップアップのコツを名手・萩原幸一郎さんがアドバイス!

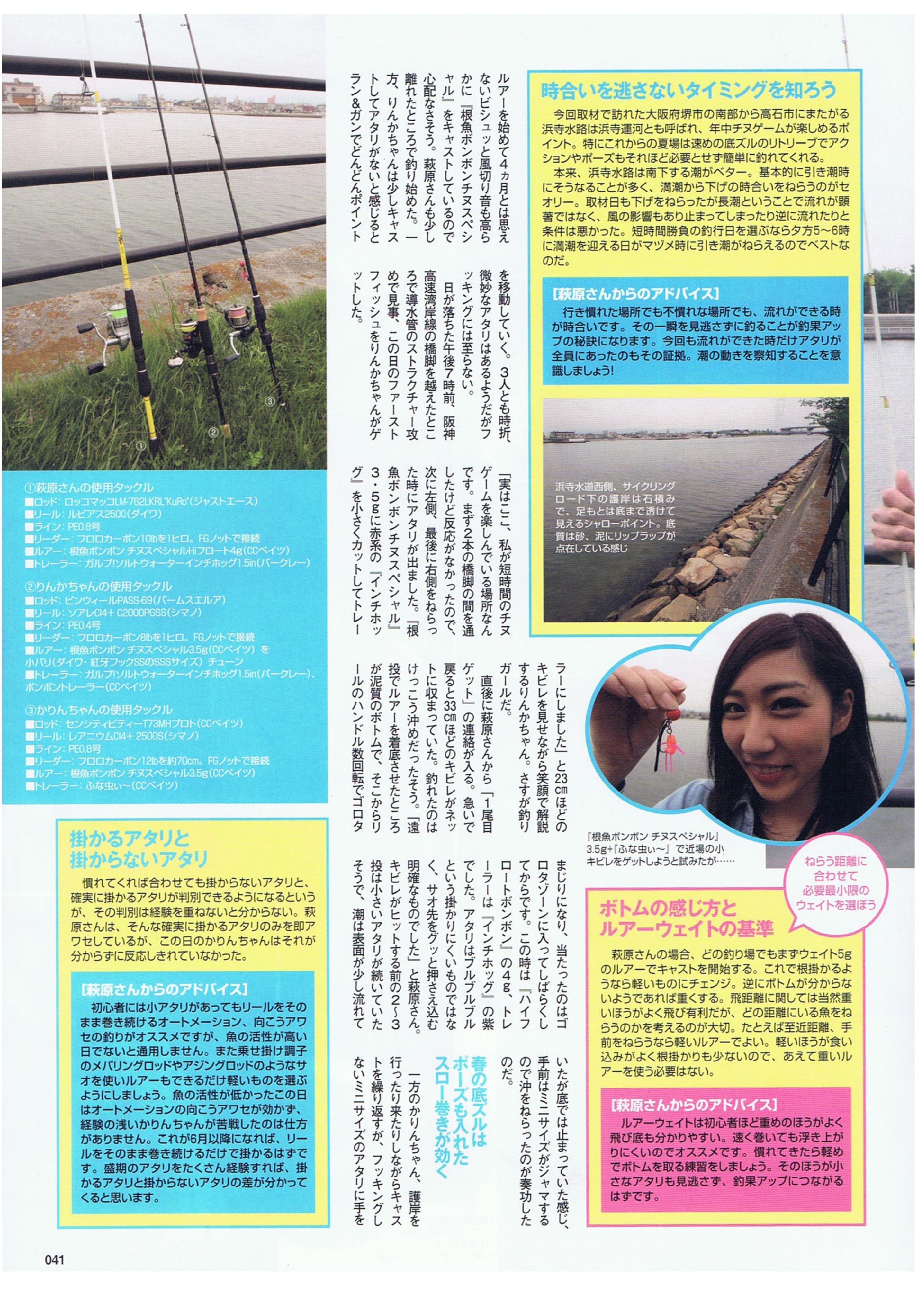
写真＆文◎高崎冬樹

りんかちゃんはチヌゲーム歴3年で浜寺は十八番のポイント、中央のかりんちゃんはルアーフィッシング自体を今冬にスタートさせたばかり、アドバイザーの萩原さんは淀川がホームグラウンド。さあ、一番釣るのは誰だ?

手前の小型は無視 遠投沖めねらいでサイズアップ

4月28日の午後5時、浜寺水路西側、大阪府立漕艇センターのすぐ南にある第5駐車場に集合したのは、ルアーフィッシングを始めたばかりの短大生、岬かりんちゃんと、チヌゲームは3年の経験を持つ釣りガール「琵琶湖でかバスあいどる」こと、りんかちゃんの2人。そしてアドバイザーとしてボトムゲームのエキスパート萩原幸一郎さんが駆けつけてくれた。

サイクリングロードが通る水路西側は石組みのシャローポイント。足もとの水深は非常に浅くリップラップが確認できるが、この日の潮は澄みすぎていた。とにかく「まずは1尾釣りましょう!」ということで石積み護岸に散開し、各自思い思いの場所で釣り開始。かりんちゃんは


①萩原さんの使用タックル
■ロッド：ロッコマッコLM-762LKRL"KuRo"（ジャストエース）
■リール：ルビアス2500（ダイワ）
■ライン：PE0.8号
■リーダー：フロロカーボン10lbを1ヒロ。FGノットで接続
■ルアー：根魚ボンボン チヌスペシャルHiフロート4g（CCベイツ）
■トレーラー：ガルプ!ソルトウォーターインチホッグ1.5in（パークレー）

②りんかちゃんの使用タックル
■ロッド：ピンウィールPASS-69（パームスエルア）
■リール：ソアレCI4+ C2000PGSS（シマノ）
■ライン：PE0.4号
■リーダー：フロロカーボン8lbを1ヒロ。FGノットで接続
■ルアー：根魚ボンボン チヌスペシャル3.5g（CCベイツ）を小バリ（ダイワ・紅牙フックSSのSSSサイズ）チューン
■トレーラー：ガルプ!ソルトウォーターインチホッグ1.5in（パークレー）、ボンボントレーラー（CCベイツ）

③かりんちゃんの使用タックル
■ロッド：センシティビティーT73MHプロト（CCベイツ）
■リール：レアニウムCI4+ 2500S（シマノ）
■ライン：PE0.8号
■リーダー：フロロカーボン12lbを約70cm。FGノットで接続
■ルアー：根魚ボンボン チヌスペシャル3.5g（CCベイツ）
■トレーラー：ふな虫ぃ〜（CCベイツ）

ルアーを始めて4ヵ月とは思えないビシュッと風切り音も高らかに『根魚ボンボンチヌスペシャル』をキャストしているので心配なさそう。萩原さんも少し離れたところで釣り始めた。一方、りんかちゃんは少しキャストしてアタリがないと感じるとラン＆ガンでどんどんポイントを移動していく。3人とも時折、微妙なアタリはあるようだがフッキングには至らない。

日が落ちた午後7時前、阪神高速湾岸線の橋脚を越えたところで導水管のストラクチャー攻めで見事、この日のファーストフィッシュをりんかちゃんがゲットした。

「実はここ、私が短時間のチヌゲームを楽しんでいる場所なんです。まず2本の橋脚の間を通したけど反応がなかったので、次に左側、最後に右側をねらった時にアタリが出ました。『根魚ボンボンチヌスペシャル』3・5gに赤系の『インチホッグ』を小さくカットしてトレーラーにしました」と23㎝ほどのキビレを見せながら笑顔で解説するりんかちゃん。さすが釣りガールだ。

直後に萩原さんから「1尾目ゲット」の連絡が入る。急いで戻ると33㎝ほどのキビレがネットに収まっていた。釣れたのはけっこう沖めだったそう。「遠投でルアーを着底させたところが泥質のボトムで、そこからリールのハンドル数回転でゴロタまじりになり、当たったのはゴロタゾーンに入ってしばらくしてからです。この時は『ハイフロートボンボン』の4g、トレーラーは『インチホッグ』の紫でした。アタリはブルブルという掛かりにくいものではなく、サオ先をグッと押さえ込む明確なものでした」と萩原さん。キビレがヒットする前の2〜3投は小さいアタリが続いていたそうで、潮は表面が少し流れていたが底では止まっていた感じ、手前はミニサイズがジャマするので沖をねらったのが奏功したのだ。

春の底ズルはポーズも入れたスロー巻きが効く

一方のかりんちゃん、護岸を行ったり来たりしながらキャストを繰り返すが、フッキングしないミニサイズのアタリに手を

時合いを逃さないタイミングを知ろう

今回取材で訪れた大阪府堺市の南部から高石市にまたがる浜寺水路は浜寺運河とも呼ばれ、年中チヌゲームが楽しめるポイント。特にこれからの夏場は速めの底ズルのリトリーブでアクションやポーズもそれほど必要とせず簡単に釣れてくれる。

本来、浜寺水路は南下する潮がベター。基本的に引き潮時にそうなることが多く、満潮から下げの時合いをねらうのがセオリー。取材日も下げをねらったが長潮ということで流れが顕著ではなく、風の影響もあり止まってしまったり逆に流れたりと条件は悪かった。短時間勝負の釣行日を選ぶなら夕方5〜6時に満潮を迎える日がマヅメ時に引き潮がねらえるのでベストなのだ。

【萩原さんからのアドバイス】
行き慣れた場所でも不慣れな場所でも、流れができる時が時合いです。その一瞬を見逃さずに釣ることが釣果アップの秘訣になります。今回も流れができた時だけアタリが全員にあったのもその証拠。潮の動きを察知することを意識しましょう!

浜寺水道西側、サイクリングロード下の護岸は石積みで、足もとは底まで透けて見えるシャローポイント。底質は砂、泥にリップラップが点在している感じ

『根魚ボンボン チヌスペシャル』3.5g+『ふな虫ぃ〜』で近場の小キビレをゲットしようと試みたが……

掛かるアタリと掛からないアタリ

慣れてくれば合わせても掛からないアタリと、確実に掛かるアタリが判別できるようになるというが、その判別は経験を重ねないと分からない。萩原さんは、そんな確実に掛かるアタリのみを即アワセしているが、この日のかりんちゃんはそれが分からずに反応しきれていなかった。

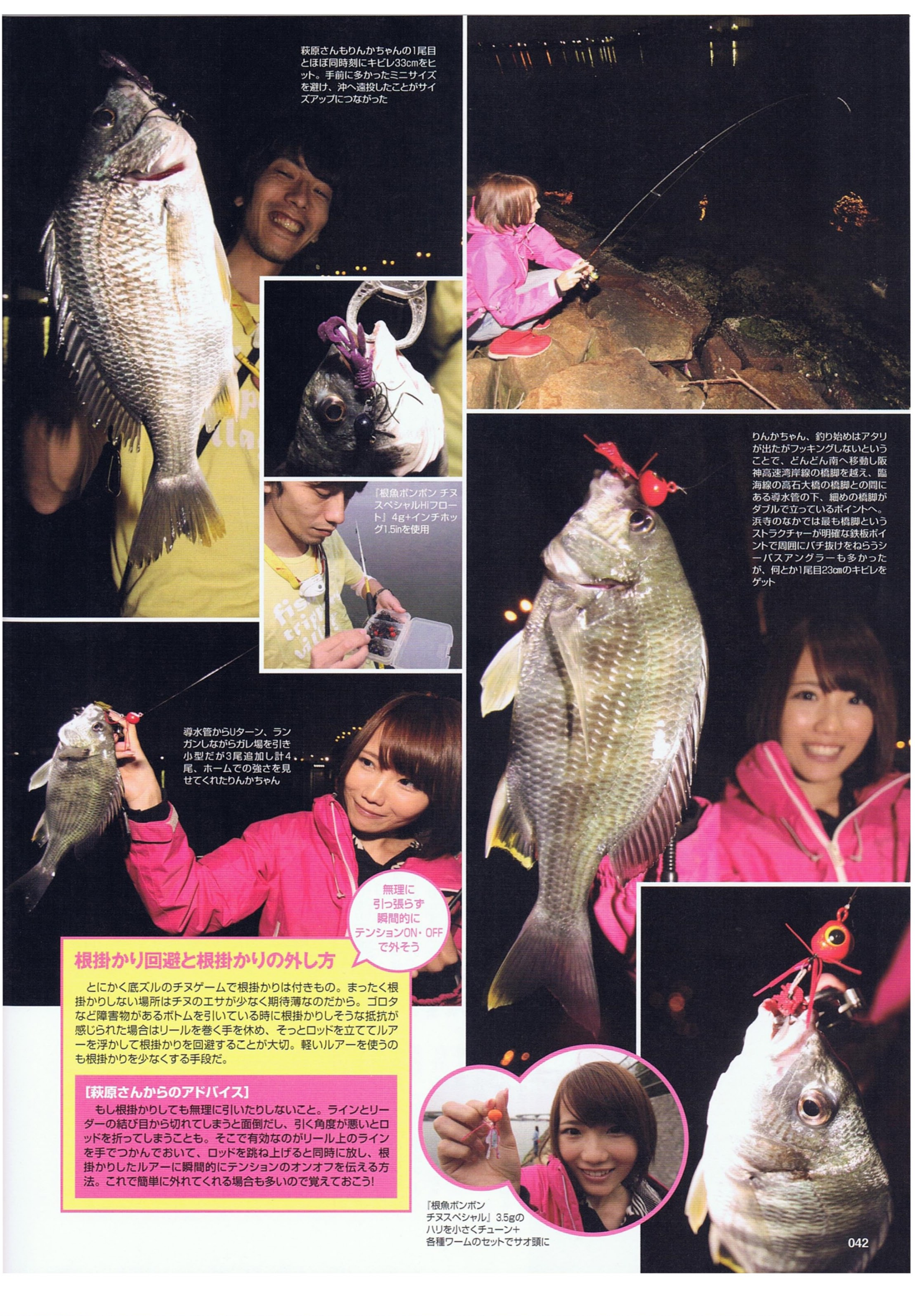
【萩原さんからのアドバイス】
初心者には小アタリがあってもリールをそのまま巻き続けるオートメーション、向こうアワセの釣りがオススメですが、魚の活性が高い日でないと通用しません。また乗せ掛け調子のメバリングロッドやアジングロッドのようなサオを使いルアーもできるだけ軽いものを選ぶようにしましょう。魚の活性が低かったこの日はオートメーションの向こうアワセが効かず、経験の浅いかりんちゃんが苦戦したのは仕方がありません。これが6月以降になれば、リールをそのまま巻き続けるだけで掛かるはずです。盛期のアタリをたくさん経験すれば、掛かるアタリと掛からないアタリの差が分かってくると思います。

ねらう距離に合わせて必要最小限のウェイトを選ぼう

ボトムの感じ方とルアーウェイトの基準

萩原さんの場合、どの釣り場でもまずウェイト5gのルアーでキャストを開始する。これで根掛かるようなら軽いものにチェンジ。逆にボトムが分からないようであれば重くする。飛距離に関しては当然重いほうがよく飛び有利だが、どの距離にいる魚をねらうのかを考えるのが大切。たとえば至近距離、手前をねらうなら軽いルアーでよい。軽いほうが食い込みがよく根掛かりも少ないので、あえて重いルアーを使う必要はない。

【萩原さんからのアドバイス】
ルアーウェイトは初心者ほど重めのほうがよく飛び底も分かりやすい。速く巻いても浮き上がりにくいのでオススメです。慣れてきたら軽めでボトムを取る練習をしましょう。そのほうが小さなアタリも見逃さず、釣果アップにつながるはずです。


萩原さんもりんかちゃんの1尾目とほぼ同時刻にキビレ33cmをヒット。手前に多かったミニサイズを避け、沖へ遠投したことがサイズアップにつながった

『根魚ボンボン チヌスペシャルHiフロート』4g+インチホッグ1.5inを使用

りんかちゃん、釣り始めはアタリが出たがフッキングしないということで、どんどん南へ移動し阪神高速湾岸線の橋脚を越え、臨海線の高石大橋の橋脚との間にある導水管の下、細めの橋脚がダブルで立っているポイントへ。浜寺のなかでは最も橋脚というストラクチャーが明確な鉄板ポイントで周囲にバチ抜けをねらうシーバスアングラーも多かったが、何とか1尾目23cmのキビレをゲット

導水管からUターン、ランガンしながらガレ場を引き小型だが3尾追加し計4尾、ホームでの強さを見せてくれたりんかちゃん

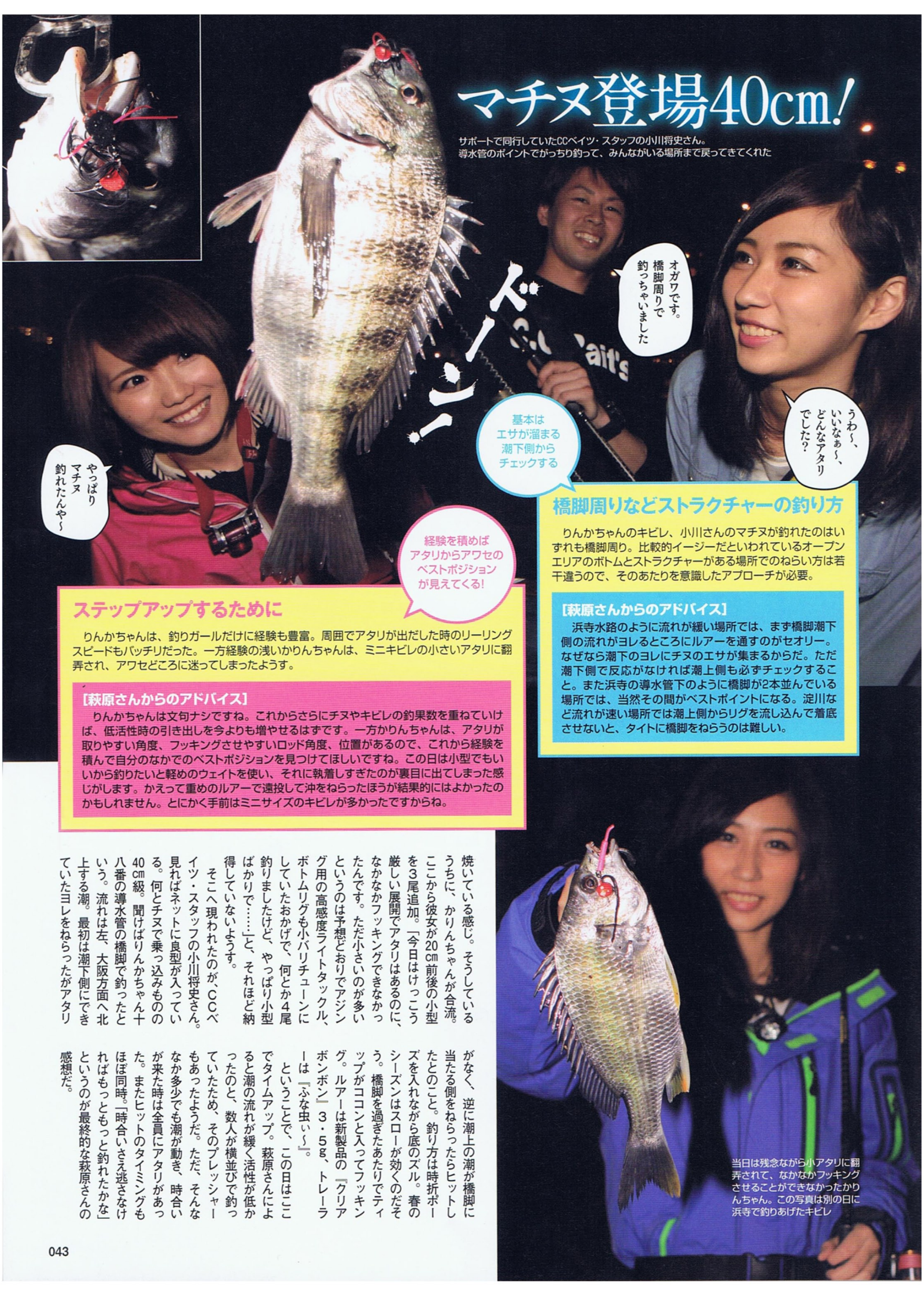
無理に引っ張らず瞬間的にテンションON・OFFで外そう

根掛かり回避と根掛かりの外し方

とにかく底ズルのチヌゲームで根掛かりは付きもの。まったく根掛かりしない場所はチヌのエサが少なく期待薄なのだから。ゴロタなど障害物があるボトムを引いている時に根掛かりしそうな抵抗が感じられた場合はリールを巻く手を休め、そっとロッドを立ててルアーを浮かして根掛かりを回避することが大切。軽いルアーを使うのも根掛かりを少なくする手段だ。

【萩原さんからのアドバイス】
もし根掛かりしても無理に引いたりしないこと。ラインとリーダーの結び目から切れてしまうと面倒だし、引く角度が悪いとロッドを折ってしまうことも。そこで有効なのがリール上のラインを手でつかんでおいて、ロッドを跳ね上げると同時に放し、根掛かりしたルアーに瞬間的にテンションのオンオフを伝える方法。これで簡単に外れてくれる場合も多いので覚えておこう!

『根魚ボンボン チヌスペシャル』3.5gのハリを小さくチューン+各種ワームのセットでサオ頭に


マチヌ登場40cm!

サポートで同行していたCCベイツ・スタッフの小川将史さん。導水管のポイントでがっちり釣って、みんながいる場所まで戻ってきてくれた

オガワです。橋脚周りで釣っちゃいました

うわ〜、いいなぁ〜、どんなアタリでした?

やっぱりマチヌ釣れたんや〜

ドーン!

基本はエサが溜まる潮下側からチェックする

経験を積めばアタリからアワセのベストポジションが見えてくる!

ステップアップするために

りんかちゃんは、釣りガールだけに経験も豊富。周囲でアタリが出だした時のリーリングスピードもバッチリだった。一方経験の浅いかりんちゃんは、ミニキビレの小さいアタリに翻弄され、アワセどころに迷ってしまったようす。

【萩原さんからのアドバイス】
りんかちゃんは文句ナシですね。これからさらにチヌやキビレの釣果数を重ねていけば、低活性時の引き出しを今よりも増やせるはずです。一方かりんちゃんは、アタリが取りやすい角度、フッキングさせやすいロッド角度、位置があるので、これから経験を積んで自分のなかでのベストポジションを見つけてほしいですね。この日は小型でもいいから釣りたいと軽めのウェイトを使い、それに執着しすぎたのが裏目に出てしまった感じがします。かえって重めのルアーで遠投して沖をねらったほうが結果的にはよかったのかもしれません。とにかく手前はミニサイズのキビレが多かったですからね。

橋脚周りなどストラクチャーの釣り方

りんかちゃんのキビレ、小川さんのマチヌが釣れたのはいずれも橋脚周り。比較的イージーだといわれているオープンエリアのボトムとストラクチャーがある場所でのねらい方は若干違うので、そのあたりを意識したアプローチが必要。

【萩原さんからのアドバイス】
浜寺水路のように流れが緩い場所では、まず橋脚潮下側の流れがヨレるところにルアーを通すのがセオリー。なぜなら潮下のヨレにチヌのエサが集まるからだ。ただ潮下側で反応がなければ潮上側も必ずチェックすること。また浜寺の導水管下のように橋脚が2本並んでいる場所では、当然その間がベストポイントになる。淀川など流れが速い場所では潮上側からリグを流し込んで着底させないと、タイトに橋脚をねらうのは難しい。

焼いている感じ。そうしているうちに、かりんちゃんが合流。ここから彼女が20㎝前後の小型を3尾追加。「今日はけっこう厳しい展開でアタリはあるのに、なかなかフッキングできなかったんです。ただ小さいのが多いというのは予想どおりでアジング用の高感度ライトタックル、ボトムリグも小バリチューンにしていたおかげで、何とか4尾釣りましたけど、やっぱり小型ばかりで……」と、それほど納得していないようす。

そこへ現われたのが、CCベイツ・スタッフの小川将史さん。見ればネットに良型が入っている。何とチヌで乗っ込みものの40㎝級。聞けばりんかちゃん十八番の導水管の橋脚で釣ったという。流れは左、大阪方面へ北上する潮。最初は潮下側にできていたヨレをねらったがアタリがなく、逆に潮上の潮が橋脚に当たる側をねらったらヒットしたとのこと。釣り方は時折ポーズを入れながら底のズル。春のシーズンはスローが効くのだそう。橋脚を過ぎたあたりでティップがココンと入ってフッキング。ルアーは新製品の『クリアボンボン』3・5g、トレーラーは『ふな虫ぃ〜』。

ということで、この日はここでタイムアップ。萩原さんによると潮の流れが緩く活性が低かったのと、数人が横並びで釣っていたため、そのプレッシャーもあったようだ。ただ、そんななか多少でも潮が動き、時合いが来た時は全員にアタリがあった。またヒットのタイミングもほぼ同時。「時合いさえ逃さなければもっともっと釣れたかな」というのが最終的な萩原さんの感想だ。

当日は残念ながら小アタリに翻弄されて、なかなかフッキングさせることができなかったかりんちゃん。この写真は別の日に浜寺で釣りあげたキビレ